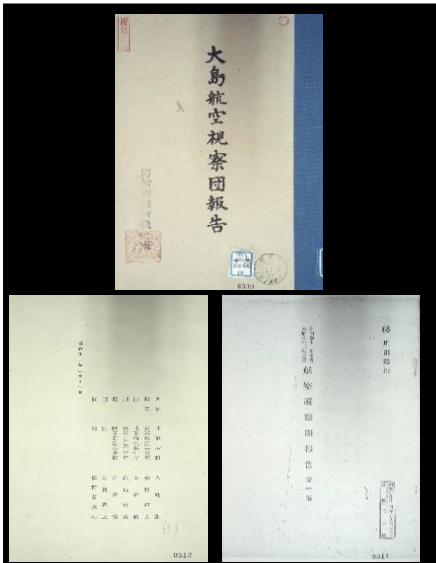


平成 30 年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎月一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

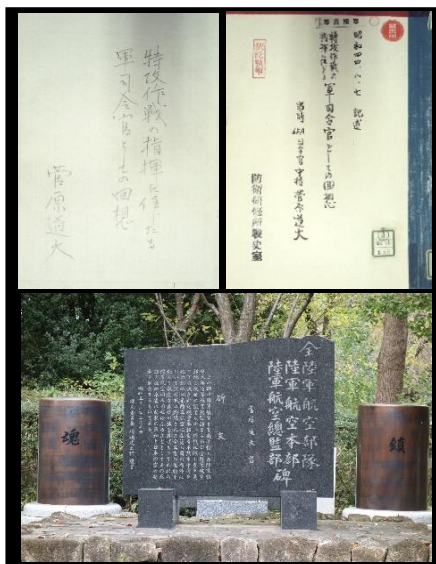
《 ^{すがはら}菅原 ^{みちお}道大 1888～1983 年 《
—長崎県出身の陸軍中将—



大島航空視察団報告

(登録番号：陸空-中央教育補充-16)

菅原道大中将は、明治 42 年陸軍士官学校を卒業(21 期)し、歩兵連隊などで勤務した後、陸軍大学校を大正 8 年に卒業(31 期)しました。卒業後、陸軍省副官などを歴任しますが、歩兵第 76 連隊大隊長在職中の大正 14 年、航空兵に転科します。その後、飛行第 6 連隊付、陸大専攻学生(2 期)、航空本部員、下志津飛行学校教官などを経て昭和 8 年 3 月航空兵大佐に昇進、飛行第 6 連隊長、航空本部第 1 課長を歴任します。そして 11 年 10 月から約 4 ヶ月、大島航空視察団(団長:駐独武官大島浩少将)の副団長となりドイツ空軍視察のため欧州へ出張します。この視察は、陸軍航空諸施策の資料となりました。特に陸上部隊に従属させない形での航空部隊の編成及び運用法などが導入されることとなります。史料は、この視察団の報告書であり、視察団が見たドイツ空軍及び陸軍における航空のあり方などが記されています。



軍司令官としての回想

(登録番号：文庫-依託-485)

菅原は、昭和 12 年 8 月少将に昇進し、第 2 飛行団長、13 年 7 月には第 3 飛行団長として支那事変に参加します。14 年 10 月中将に昇進した菅原は、下志津飛行学校長、第 1 飛行集団長などを歴任し、16 年 9 月第 3 飛行集団長となり大東亜戦争を迎えます。菅原は、この戦争には「明暗」があったとしています。17 年 4 月の第 3 飛行師団長、7 月の第 3 航空軍司令官を通じた期間は緒戦における赫々たる戦果をあげた「明」の時期でした。18 年 5 月以降、菅原は航空士官学校長、航空総監部次長、航空総監兼航空本部長、(兼)教導航空軍司令官などを歴任、その後「暗」の時期を迎え、19 年 12 月には第 6 航空軍司令官に就任、沖縄作戦における航空特攻を指揮します。史料には、菅原の第 6 航空軍司令官としての特攻に対する思いが記されています。防衛省敷地内には、菅原書の全陸軍航空部隊碑が建立されています。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。
防衛研究所企画部企画調整課

専用線：8-6-29171、29175 (史料紹介コーナーのみ29651)

外線：03-3260-3011

FAX：03-3260-3034

※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.mod.go.jp>